

■古賀謹一郎(謹堂・茶溪) 儒学者、洋学者。蕃書調所の初代頭取。開国交渉など近代準備するも、新政府に出仕せず。

こがきんいちろう

伊能測量終・1816= 江戸の昌平黉官舎で、佐賀藩儒から昌平黉に召されて幕臣となった古賀精里の子三男でやはり儒者となった?庵の子に生まれる。母は書物奉行鈴木白藤の娘松。

水野忠成老中1818= 2歳:

昌平黉儒者増島蘭園について句読を受け、

異国船打払令1825= 9歳:

家学を承け、

鼠小僧磔・・1832=16歳: この年には、二十一史に通じる。

高島砲術・・1834=18歳:

・・・・・1836=20歳: 大番入り。

大塩平八郎乱1837=21歳: この頃、勤番で京都に住む。

この頃、弟徳二郎が発狂、

蚕社の獄・・1839=23歳: この頃、小林家の娘と結婚。

天保改革始・1841=25歳: 長女阿琴が誕生。書院番入り。「書笏編」「記孝子乙藏復仇事」を著す。

順天堂始・・1843=27歳:

阿部正弘首座1845=29歳:

孝明天皇・・1846=30歳: 昌平黉儒者見習となる。この頃、西洋事情研究を開始。

・・・・・1847=31歳: 「講堂日誌鈔之一」始め。*父?庵が死去し、林家除くと異例の三代続きの昌平黉儒者となる。

・・・・・1848=32歳: 次郎吉の漂流談を聞き、「蕃談」著す。

この間、洋学関係書を耽読して批難されるも揺るがず、開明的な諸大名らとも交流するうち、

万次郎帰国・1852=36歳:

ペリー来航・1853=37歳: *ペリーに続いてプチャーチンが来航すると、安積良斎とともに国書を草し、「遠洋航海」「ロシア使節召し寄せ」上書。筒井・川路・荒尾とともにロシア交渉応接掛を拝命し、布衣の位に上がり、御役料百俵を加えられる。長崎に赴き、応接使の一員として、十回程プチャーチンとの日露交渉に当る。「西使日記」著述。

開国開港・・1854=38歳: 長崎オランダ館で種々の科学実験を見た後、佐賀藩の大砲製作所などを視察し、江戸に帰る。「洋学所取り立て」を上書。再びロシア交渉応接掛となり、下田に赴く。大津波に遭遇後、プチャーチンとの日露親条約締結に立ち会い、日米和親条約批准のため来日したアダムスとの交渉にも参加。「西使續記」著述。

安政大地震・1855=39歳: *江戸に戻り、阿部正弘に「領事館設置」「近海測量許可」を上書。「洋学所取り立て」の具体案も再び上書し、阿部正弘に認められ、二丸留守居兼洋学所頭取を拝命。「(洋学所改め)蕃書調所の実行案」伺書を提出し、阿部正弘のお墨付きも得る。誕生以来住み続けた昌平黉官舎を出て、神保町の役宅に移る。

松下村塾・・1856=40歳: 「唇言日出巻一」著し、「講堂日誌鈔之一」終わる。蕃書調所の経営に尽瘁し、

蕃書調所・・1857=41歳: 蕃書調所の正式な開所に導く。老中以下が居眠りするなか過労の阿部正弘のみが熱心に聴いていた。

安政の大獄・1859=43歳: 登場した井伊直弼の復古政策で、洋学の前途に不安を感じる。

桜田門外変・1860=44歳: 御留守居番次席となる。この頃から蕃書調所研究部門が設置され始める。

遣欧使節・・1861=45歳: 御留守居番になるが、讒言でか、蕃書調所の御用は全て免除となり、失職。

8月18日政変 1863=47歳: 攘夷派を激烈に糾弾する「唇言日出巻二」著す。

禁門の変・・1864=48歳: 大坂町奉行に任じられるが、病を以て辞退する。オランダ語学習を再開し、

薩長同盟・・1866=50歳: 製鉄所奉行になる。抄訳により博物学的な「度日閑言」を著す。

大政奉還・・1867=51歳: 目付となる。諸大夫。朝鮮使節の目付となるも実行されず。緒方洪庵の墓碑銘を書く。

明治維新・・1868=52歳: 維新の動乱で心労を受けた最愛の娘阿琴が死去。一家を挙げて静岡に移居、大岩村に住む。

戊辰戦争終・1869=53歳: 中村正直と共著の漢詩集「百笑百妙」。

初の日刊新聞1870=54歳: *新政府からの大学大博士招聘も拒絶。静岡の長谷に移居。翻訳書「董説」。中村正直「西国立志編」に序文。

廃藩置県・・1871=55歳: 翻訳書「勇蹟紀事」。

明治6年政変 1873=57歳: 東京に戻り、向柳原に居住。

三つの内乱・1876=60歳: 弟徳二郎が正気に戻らないまま死去。碑文「林鶯漢墓誌銘」。

沖繩県編入・1879=63歳: 母松(鈴木氏)が死去。東京学士会院会員に推薦されるも辞退。

・・・・・1880=64歳: 碑文「戦死舊一關藩土碑」など、

明治14年政変1881=65歳:

維新に殉じた佐幕側士族らを悼みつつけて、

秩父事件・・1884=68歳: 胃管狭窄のため、没した。幕末裏面史ともいえる「明治十七年の日記」遺す。